

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 教育学部・教育学研究科 4-1-1(研究)

教育学部・教育学研究科

- I 研究水準 4-1-2(研究)
- II 質の向上度 4-1-2(研究)

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、科学研究補助金の内定、共同研究の受入れ、学内教育研究プロジェクト経費の配分、研究助成目的の寄附金の受入れ、さらには日本学術振興会の二国間交流事業の採択、特色ある学校安全教育プログラムの開発等にみられるように、研究活動の活性化が図られており、その研究業績は着実に蓄積されている。また研究資金の獲得状況については、平成19年度における科学研究費補助金の申請件数が135件、内定件数71件、内定金額9,030万円となっていることは、相応の成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、様々な形での研究成果の公表が認められ、学術雑誌への質の高い論文掲載や論文賞受賞、国内外で高く評価できるものも、少なからず認められる。社会、経済、文化面では、相対性理論を分かりやすく解説したものや教職員の健康調査等、いくつかの成果が認められることは、相応の成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

